

## 西部町田病院（仮称）に関する補足説明について

令和5年5月12日

医療法人 泰一会

理事 永井 一郎

## 1 病院の整備計画の概要について

## 建設予定地において提供する予定の医療内容について

## ① 診療科目

整形外科、内科、外科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科

開院当初は整形外科3名、内科1名、外科1名、脳神経外科1名、麻酔科1名、リハビリテーション科1名の常勤医を予定しています。加えて非常勤医師を雇用します。法人のベースが整形外科なので、整形外科を中心とした医療を予定しています。

## ② 病床数

急性期 130床 回復期 70床(2病棟)

急性期 130床、回復期リハビリテーション病床 70床を予定しています。急性期病床の1/2の65床は整形外科疾患を想定しています。回復期リハビリテーション病床は新病院急性期病床からの転ベッドを見込んでいます。

依頼があれば他院からの受け入れもさせていただきます。残りの65床については医師の採用状況にもよりますが、地域のニーズに合わせて必要とされる医療を提供することを考えています。

## ③ 当初開設時点から200床稼働までのプラン

## ○段階的な病床開設スケジュール

令和8年4月に整形外科疾患を中心とした、急性期35床で開業する予定です。休日夜間救急対応については、当初は1系統で始める予定です。スタッフの習熟や患者様の増加に伴い、8月に50床に増加します。その後に漸増し開院後1年で135床、1年6か月で200床となることを見込んでいます。

## ○想定している医療提供内容（この地域で特に力を入れていきたい診療領域、疾患など）

整形外科を中心とした、2次救急レベルまでの疾患を想定しています。現在、東村山市にある多摩北整形外科病院では開放性骨折（ガスティロ分類のタイプ2以下）の緊急手術が必要な症例だけでなく、椎体骨折や腰痛などの保存療法なども積極的に受け入れており、新病院においても同様に救急患者の受け入を行う予定です。休日や夜間の診療にも対応します。また、救急搬送を保険の種類・年齢・既往症などで選別することはありません。

#### ④ 地域との連携について

##### ○町田市医師会や近隣の関係機関との連携について

病院運営では近隣病院との連携が大切と考えており、町田市医師会・八王子市医師会・多摩市医師会に加え、相模原市・日野市・稲城市の医師会とも連携を取っていきたくと考えています。

##### ○近隣の医療機関との連携について、具体的にどのように考えているのか。

###### (上りの場合・下りの場合)

紹介をいただいた患者様に関しては、治療終了後には地域のクリニックや病院に戻させていただきます。当院からお願いした患者様は、依頼先の病院での治療が終了した段階で受け入れる予定です。八王子市の近隣の医療機関とも密に連携させていただければ幸いです。

新病院にて治療が困難な場合には、近隣の大学病院をはじめ、地域の医療機関の皆様と連携させていただき対応していきたくと考えています。

最終的には南多摩医療圏で連携関係を構築し、一緒に地域医療の向上に努めていく所存です。

##### ○地域に不足している医療提供について（小児医療等）

小児の外傷は積極的に受け入れます。当医療法人の多摩北整形外科病院では、24時間365日年齢に関係なく診療しています。東村山市の小中学校や幼稚園や保育園などと【けがホットライン】という取組を実施し、救急隊を介さずにダイレクトに連携が取れています。地域のニーズに合わせて同様の取組を構築していくことを考えています。

##### ○開設までの間、近隣の医療機関との意見交換に関して

地域の状況を鑑みながら、必要性に応じ意見交換を行っていきたくと思います。

## 2 町田市から要望のある災害時の対応について

### ① 地域ではどのような役割を担っていく予定か

(開設時点および段階的な開設スケジュールに応じて)

耐震構造を取り入れた建物を建築し、非常用電源をはじめ、水や食料等必要な物資を7日分程度備蓄予定です。また、災害時には町田市の地域防災計画に定められている役割を果たす事ができる準備を行います。自治体や地域医療機関と協力し、医療救護所の開設等の必要とされる役割を担い、南多摩医療圏の災害医療に貢献し、災害拠点連携病院としての役割を果たすことを考えています。年1回以上の訓練を予定しています。

## ② 同一法人・病院グループにおける、災害医療にかかわる取り組み状況

一例をあげます。令和元年10月に台風19号の被害で川越市の老人保健施設が水没した際に、飯能整形外科病院から医師も含めた医療スタッフを派遣し、入所患者全員の救助活動を行いました。

## 3 新興感染症に備えた取り組みについて

### ① 地域でどのような役割を担っていくか

(開設時点および段階的な病床開設スケジュールに応じて)

災害時や未知の感染症に対しても対応できる病院を想定しています。構造上強固な建物を建築するとともに、42床(2病棟)の病室にヘパフィルターや陰圧の設備を整えます。大部屋を個室化したり、病棟を区切ったりできる構造を考えています。エネルギー・水・食料などの備蓄を行い、物資の補給がなくても1週間は通常に稼働できる設備を建設予定です。新興感染症が発生した場合は地域と連携しながら、どのような貢献ができるのかを考えていきます。また、敷地内に駐車場を広く確保する計画です。例えばその駐車場に検査場所を設置することで地域の感染症対策に協力できると考えています。

### ② 同一法人・病院グループにおける、新型コロナウイルス感染症に係る対応状況

当法人グループである埼玉県飯能靖和病院は、埼玉県における新型コロナウイルス感染症の重点医療機関に指定されています。

## 4 医療人材の雇用について

### ① 開設当初の医師8人、看護師25人、薬剤師2人の採用ルートを具体的に

当法人は飯能整形外科病院・多摩北整形外科病院・和光リハビリテーション病院・多数の老人保健施設を運営しており、ここで育成した人材を中心に、開設する病院に派遣して運営していく予定です。多摩北整形外科病院の開設時に、近隣の医療機関に勤務されている看護師さんから就職の希望がありましたがお断りしています。地元の医療機関に勤務されていないスタッフは採用していく予定です。

### ② 200床開院までの人員体制と採用ルート等を具体的に

当法人は飯能整形外科病院・多摩北整形外科病院・和光リハビリテーション病院・多数の老人保健施設を運営しています。ここで育成した人材を中心に、開設する病院に派遣して運営していく予定です。当法人は大学のリハビリテーション実習の指定病院となっており、リハビリテーション実習生を受け入れています。リハビリテーション職員は法人内で100名以上の在籍者がおります。当法人で看護学生に対し奨学金制度を設けており、新卒の看護師を一定数確保できます。また、給与については法人グループ内での統一を図る必要があることから、新病院だけ特別な給与水準で募集することは致しません。近隣医療機関の医療スタッフ不足や、給料相場の上昇には十分に配慮する予定です。